

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年10月17日(2013.10.17)

【公表番号】特表2013-522276(P2013-522276A)

【公表日】平成25年6月13日(2013.6.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-030

【出願番号】特願2012-557545(P2012-557545)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

C 0 7 K 14/82 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02 Z N A

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 39/00 G

A 6 1 K 35/12

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 K 31/7088

C 0 7 K 14/82

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月28日(2013.8.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

SEQ ID NO 1からSEQ ID NO 10、SEQ ID NO 20およびSEQ ID NO 24から成るグループから選択されたアミノ酸配列を含む少なくとも2つのペプチド、および/またはSEQ ID NO 1からSEQ ID NO 10、SEQ ID NO 20およびSEQ ID NO 24と少なくとも85%同一の変異アミノ酸配列を含む少なくとも2つのペプチド、および/またはSEQ ID NO 1からSEQ ID NO 10、SEQ ID NO 20およびSEQ ID NO 24またはこれらの変異アミノ酸配列をコードする核酸を含むポリヌクレオチド、および薬剂的に認容される担体を含む、薬剤組成物。

【請求項2】

SEQ ID NO: 11からSEQ ID NO: 22から成るグループから選択されるアミノ酸配列を含む少なくとも1つの追加ペプチド、または

SEQ ID NO: 11からSEQ ID NO: 22と85%以上同一の変異アミノ酸配列を含む少なくとも1

つの追加ペプチド、または

SEQ ID NO: 11からSEQ ID NO: 22またはこれらの変異アミノ酸配列をコードする核酸を含むポリヌクレオチド

をさらに含む、請求項 1 に記載の薬剤組成物。

【請求項 3】

ペプチドの全長が、8～100アミノ酸長、8～30アミノ酸長、または8～17アミノ酸長である、請求項 1 または 2 に記載の薬剤組成物。

【請求項 4】

少なくとも1つのペプチドは非ペプチド結合を含むものである、請求項 1 ～ 3 のいずれかーに記載の薬剤組成物。

【請求項 5】

SEQ ID NO 1からSEQ ID NO 22およびSEQ ID NO 24のアミノ酸配列から成る少なくとも2つのペプチドを含む、請求項 1 ～ 4 のいずれかーに記載の薬剤組成物。

【請求項 6】

2つのMHCクラスIペプチドのうち1つは、SEQ ID NO 1のアミノ酸配列およびSEQ ID NO 11のアミノ酸配列を含む、または

2つのMHCクラスIペプチドのうち1つは、SEQ ID NO 2のアミノ酸配列およびSEQ ID NO 11のアミノ酸配列を含む、または

2つのMHCクラスIペプチドのうち1つは、SEQ ID NO 3のアミノ酸配列およびSEQ ID NO 11のアミノ酸配列を含む、

少なくとも2つのMHCクラスIペプチドを含む、請求項 1 ～ 5 のいずれかーに記載の薬剤組成物。

【請求項 7】

組成物に存在するペプチドの選択が、数が、および/または量が、組織特異的、がん特異的、および/または患者特異的である、請求項 1 ～ 6 のいずれかーに記載の薬剤組成物。

【請求項 8】

1018 ISS、アルミニウム塩、Amplivax、AS15、BCG、CP-870,893、CpG7909、CyaA、dSLIM、GM-CSF、IC30、IC31、イミキモド、ImuFact IMP321、IS Patch、ISCOMATRIX、JuvImmune、LipoVac、MF59、モノホスホリルリピドA、モンタニドIMS 1312、モンタニドISA 206、モンタニドISA 50V、モンタニドISA-51、OK-432、OM-174、OM-197-MP-EC、ONTAK、PepT elベクター系、PLG微粒子、レシキモド、SRL172、ピロソームおよび他のウイルス様粒子、YF-17DBCG、Aquila's QS21 stimulon、Ribi's Detox. Quil、Superfos、フロイントアジュバント、GM-CSF、コレラ毒素、免疫学的アジュバント、MF59、およびサイトカインから成るグループから選択される、少なくとも1つの適切なアジュバントをさらに含む、請求項 1 ～ 7 のいずれかーに記載の薬剤組成物。

【請求項 9】

アジュバントが顆粒球マクロファージコロニー刺激因子 (GM-CSF) を含むコロニー刺激因子、イミキモドおよびレシキモドから成るグループから選択される、請求項 8 に記載の薬剤組成物。

【請求項 10】

少なくとも1つの抗原提示細胞をさらに含む、請求項 1 ～ 9 のいずれかーに記載の薬剤組成物。

【請求項 11】

抗原提示細胞は樹状細胞である、請求項 10 に記載の薬剤組成物。

【請求項 12】

少なくとも1つの抗原提示細胞が、

a) ペプチドでパルスされている、もしくはペプチドを載せている、または

b) ペプチドをコードする発現構成物を含む、

請求項 10 または 11 に記載の薬剤組成物。

【請求項 13】

ワクチンが静脈内、動脈内、腹腔内、筋肉内、経皮、腫瘍内、経口、経皮、経鼻、頬側、直腸、経膈、吸入、または局所投与されるものである、請求項 1 ～ 1 2 のいずれかに記載の薬剤組成物。

【請求項 1 4】

患者のがんを治療または予防するための医薬の製造における、請求項 1 ～ 1 3 のいずれかに記載の薬剤組成物の使用。

【請求項 1 5】

薬剤組成物が抗がんワクチンである、請求項 1 4 に記載の使用。

【請求項 1 6】

がんは、胃癌であるか、または、前立腺癌、口腔癌、口腔扁平上皮癌（OSCC）、急性骨髄性白血病（AML）、ピロリ菌誘発性 MALT リンパ腫、結腸癌または結腸直腸癌を含む大腸癌、神経膠芽細胞種、非小細胞肺癌（NSCLC）、子宮頸癌、ヒト乳癌、前立腺癌、大腸癌、膵臓癌、膵管腺癌、卵巣癌、肝細胞癌、肝臓癌、様々な表現型の脳腫瘍、急性リンパ芽球性白血病（ALL）などの白血病、肺癌、ユーイング肉腫、子宮内膜癌、頭頸部扁平上皮細胞癌、咽頭上皮癌、食道癌、口腔癌、膀胱癌、卵巣癌、腎細胞癌、非定型髄膜腫、甲状腺乳頭癌、脳腫瘍、唾液管癌、節外性 T/NK 細胞リンパ腫、非ホジキンリンパ腫、もしくは肺と乳房の悪性固形腫瘍である、請求項 1 5 に記載の使用。

【請求項 1 7】

がんは大腸癌である、請求項 1 6 に記載の使用。